

低温物流事業説明会



2023年2月20日
株式会社ニチレイ

- I. これまでの成長と今後の見通し
 1. 低温物流事業のビジネスモデル
 2. 業績の推移
 3. 競争優位性
 4. 今後の見通し

- II. 社会課題の解決と資本効率向上に向けた取組み
 1. 当社の取組みと目指す姿
 2. トラックドライバー2024年問題による事業環境変化
 3. トラックドライバー不足に対するソリューション
 4. (低温物流事業) 財務・非財務目標
 5. ROICの推移と目標 (国内・海外)
 6. 設備投資戦略
 7. 欧州のビジネスモデル
 8. 今後の取組み (欧州・ASEAN・中国)
 9. (グループ重要事項) 気候変動への取組み

- III. ご参考：低温物流事業概要

基本姿勢

ニチレイグループ唯一の「サービス業」として、当社で働くすべての人の満足度を高め、あらゆるシーンでお客様の利用体験価値を上げていくことを追求し、生活者に貢献する

【低温物流事業（サービス業）のビジネスモデル】

ストック型 のビジネス

- 売り切りのフロー型ではなく、積み上げを前提とした収益継続型モデル
- 従量課金型のサブスクリプションサービス（シェアリングサービス）

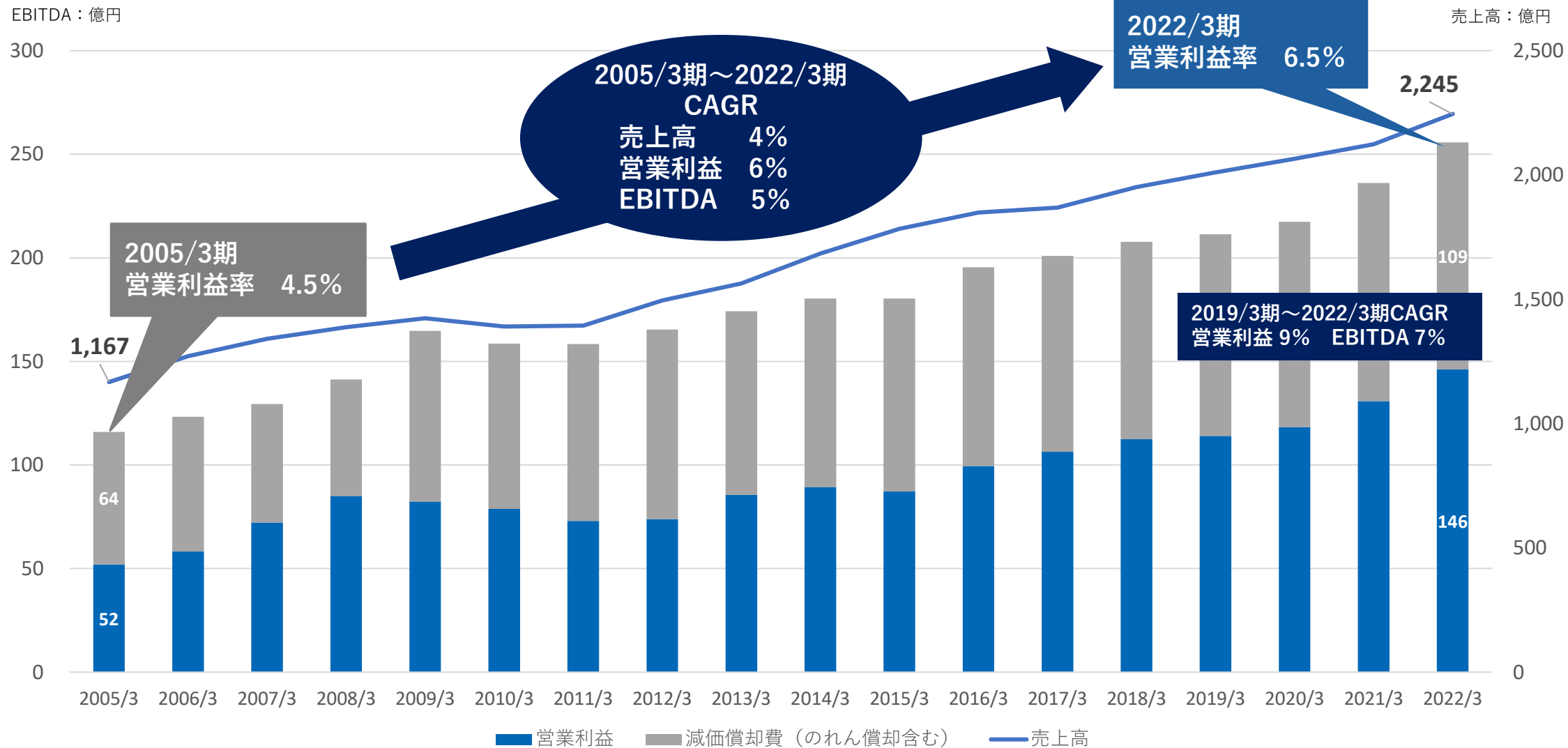
- 高品質のオペレーション・最適なソリューションの提供
- 顧客生涯価値を最大化するために息の長い取引へ



顧客

(+)物流課題の解決
(+)人員や設備を保有せず、
利用した分だけの料金

売上高・営業利益・EBITDAの推移



①オペレーション力

あらゆる業態・物量・サービスレベル
に対して、ワンストップでユニバーサル
サービスの提供が可能

物流インフラのネットワーク

豊富なサービスメニュー

国内最大の保管能力

②顧客基盤

圧倒的な顧客基盤と取扱物量をベース
に、様々な組み合わせによる物流効率
化が可能
(高い稼働率の維持、物流共同化等)

強固かつ多様な顧客基盤

サービスの組み合わせ・コーディネート

高度な物流システム

③コンサルティング力

潜在顧客のスイッチングコストを低減
するノウハウ・コンサルティングサー
ビスの提供が可能
(顧客の物流見直し時のリスク低減)

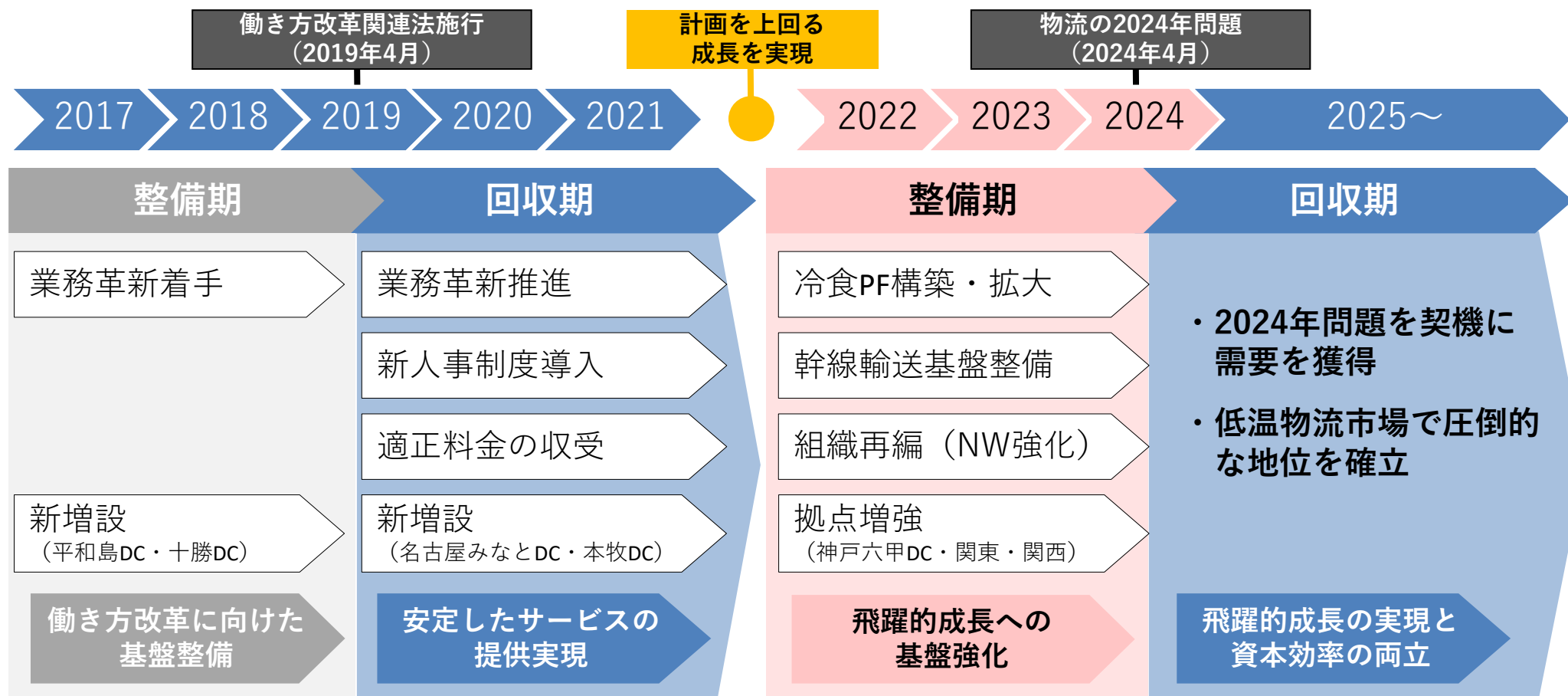
コンサルティングのノウハウ・実績

経験豊富な物流専門人財・協力会社群

実行・運営管理能力

【低温物流事業の5ヵ年計画】

今中計を整備期と位置付け、次期中計では飛躍的成長の実現と資本効率の両立を図る



外部環境・社会課題	
食品関連	<ul style="list-style-type: none">・ サプライチェーンリスクの高まり・ 国内外における食糧安全保障・ 労働力不足（1次～3次産業）・ フードロス
低温物流業界	<ul style="list-style-type: none">・ 市場規模は約2兆円（推計）、近年は冷凍食品の構成比が増加・ ドライバー2024年問題への対応、倉庫内の人手不足・ エネルギー価格高騰・ 物流不動産事業者の参入
社会要請	<ul style="list-style-type: none">・ サステナビリティ課題への対応

当社の取組み
<ul style="list-style-type: none">・ 付加価値の高い拡張性あるコールドチェーンの提供
<ul style="list-style-type: none">・ 冷凍食品物流プラットフォームの充実
<ul style="list-style-type: none">・ 幹線輸送機能強化（SULSの拡充）
<ul style="list-style-type: none">・ 海外拡大（欧州での成長とアジアでの基盤強化）
<ul style="list-style-type: none">・ 持続的な物流サービスの提供（業務革新の推進）
<ul style="list-style-type: none">・ CO2削減・自然冷媒化の促進

目指す姿

社会的価値の創造と経済的価値の獲得による持続的な成長

【2024年問題による事業環境変化】

ドライバーの拘束時間短縮



直送可能距離の短縮



在庫集約型から分散型へ

【事業環境変化に伴う荷主の課題】

課題

在庫拠点数の増加

- ・ 拠点数増加による管理コストの増加
- ・ トータル在庫数の増加



荷主のジレンマが発生

在庫水準の抑制により
在庫補充頻度を増やす
と輸送コストが増加



補充頻度の抑制により
在庫量が増えると保管
コストが増加

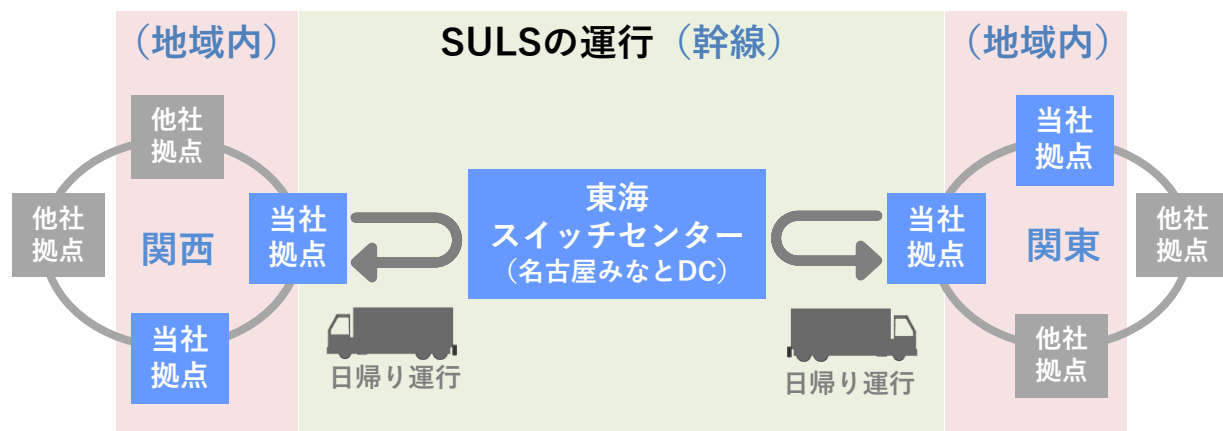
ソリューションの提供

- ・ 補充頻度や積載率のバランスを調整・最適化
- ・ 物流共同化による輸送効率の向上

次世代輸配送システム（SULS）の拡充

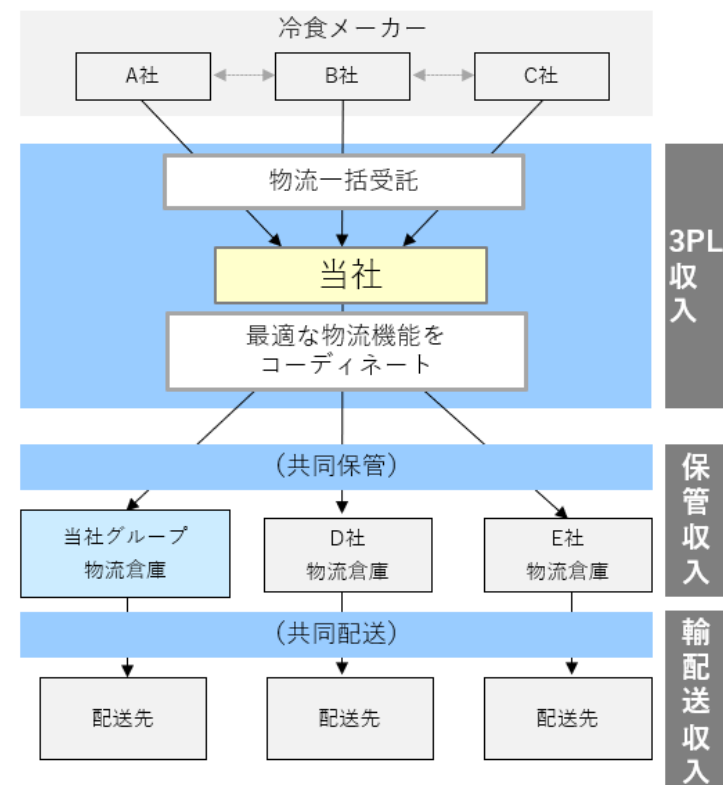
- ・トラックドライバーの拘束時間短縮による業務負荷軽減
- ・切離し可能な大容量トレーラーの使用による輸送効率の向上
- ・東名阪でSULSモデルケースを確立し、他エリアへ展開
- ・現在4台の自社セミトレーラーを保有、今中計で45台の追加購入を計画（年間15台ずつ購入予定）

【SULSの運行イメージ（現在）】



冷凍食品物流プラットフォームの構築

- ・業態ごとに荷主をカテゴリライズし、共同化の基盤を提供
- ・来期にかけて包括受託モデルを確立し、顧客拡大によりプラットフォームを構築・展開
- ・他社アセットの活用も重視し、使用する拠点は柔軟に検討



(低温物流事業) 財務・非財務目標

(単位：億円)

財務目標	22/3 実績	25/3 計画	22/3比	CAGR
売上高	2,245	2,600	355	5.0%
海外売上高	459	638	179	11.6%
海外売上高比率	20.5%	24.5%	4.1%	—
営業利益	146	162	16	3.5%
営業利益率	6.5%	6.2%	△0.3%	—
EBITDA	254	308	53	6.5%
EBITDAマージン	11.3%	11.8%	0.5%	—
設備投資額 (中計3か年)	498	649	151	
簡易ROIC	7.8%	7%以上		

*簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本 (営業資金+有形無形固定資産)

非財務目標	22/3 実績	25/3 目標
CO2排出量削減 ※1	△20%	△30%
自然冷媒化率 ※2	53%	63%

※1 グループ全体 (2015年度比、国内Scope1,2)

※2 低温物流関係 (海外を含む)

設備投資の主な内訳	
総額 649億円	<ul style="list-style-type: none"> ・ 冷蔵倉庫の新設 (大都市圏) ・ 環境対応投資 (自然冷媒化、省エネ設備更新等) ・ 冷蔵倉庫の新設 (欧州)

【2021年度実績】

- 国内はTC事業の伸長や保管料の適正料金收受などにより、利益率・資産回転ともに向上し、2012年度比でROICが2.6%上昇
- 海外はオランダを中心とした港湾ビジネスの拡大などにより利益率が向上し、2012年度比でROICが0.7%上昇

【2027年度目標】

- 国内外で利益率と資産回転を高め、全体でROIC9%を目指す

	2012			2021			2027
	合計	国内	海外	合計	国内	海外	合計
簡易ROIC *	5.8%	5.9%	4.6%	7.8%	8.5%	5.3%	9%
税引後利益率	3.8%	3.9%	2.6%	4.5%	4.8%	3.1%	4%台後半
資産回転	1.5	1.5	1.7	1.7	1.7	1.7	1.9回程度

*簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本（営業資金＋有形無形固定資産）

設備投資の考え方

需要の確認

- ・ 取扱い物量を確保したうえでの意思決定
- ・ 新規顧客受入れのための有効な立地

ポートフォリオ管理

- ・ 保管能力や築年数に応じた投資管理
- ・ 拠点の統廃合や他社アセットの活用も含めた投資判断

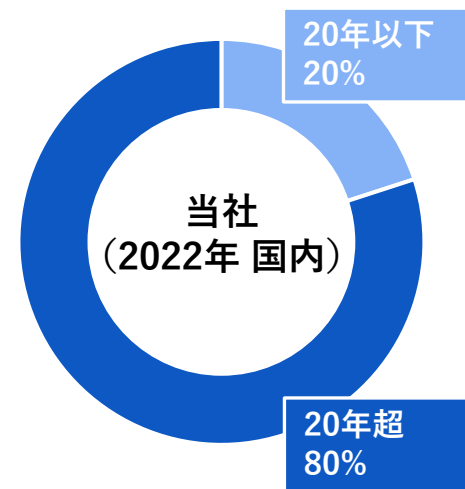
投資効果の最大化

- ・ 新設倉庫の早期安定稼働
- ・ 運営効率を高め、輸配送も含めたエリア全体での収益最大化
- ・ 設備投資を行いながら収益を獲得

【ポートフォリオ管理】

- コスト負担が大きい築10年以内の自社倉庫の保有比率を一定以下に維持

【築経過年数別設備能力の割合】



- (+) 新設時から高い稼働率
- (-) 新設に伴うコスト増加

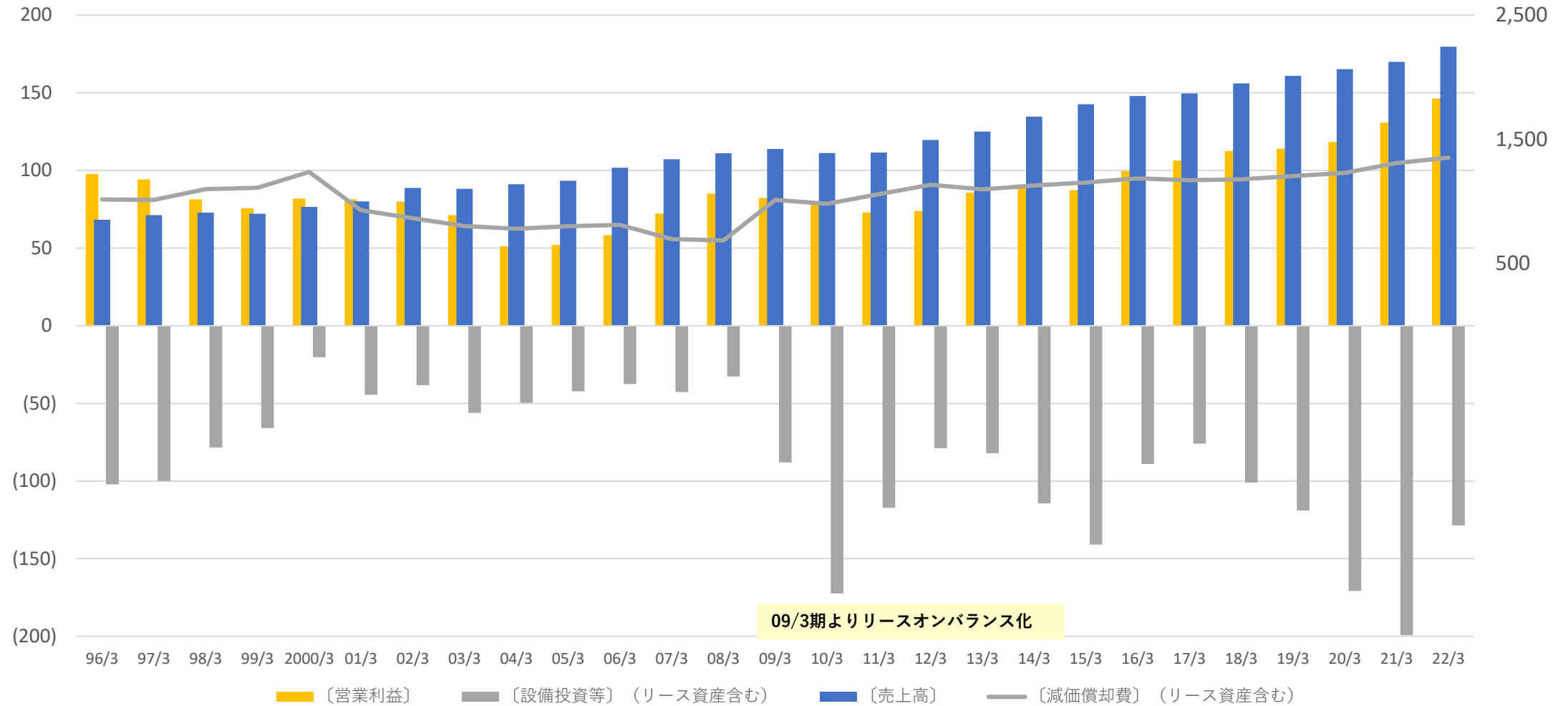
- (+) 減価償却費の減少
- (+) 設備の長期利用
- (-) 修繕費の増加

(ご参考：法定耐用年数)
 ・ 冷蔵倉庫 21年、機械装置 12年

設備投資額と売上高営業利益・減価償却費の推移

設備投資、営業利益、減価償却費：億円

売上高：億円

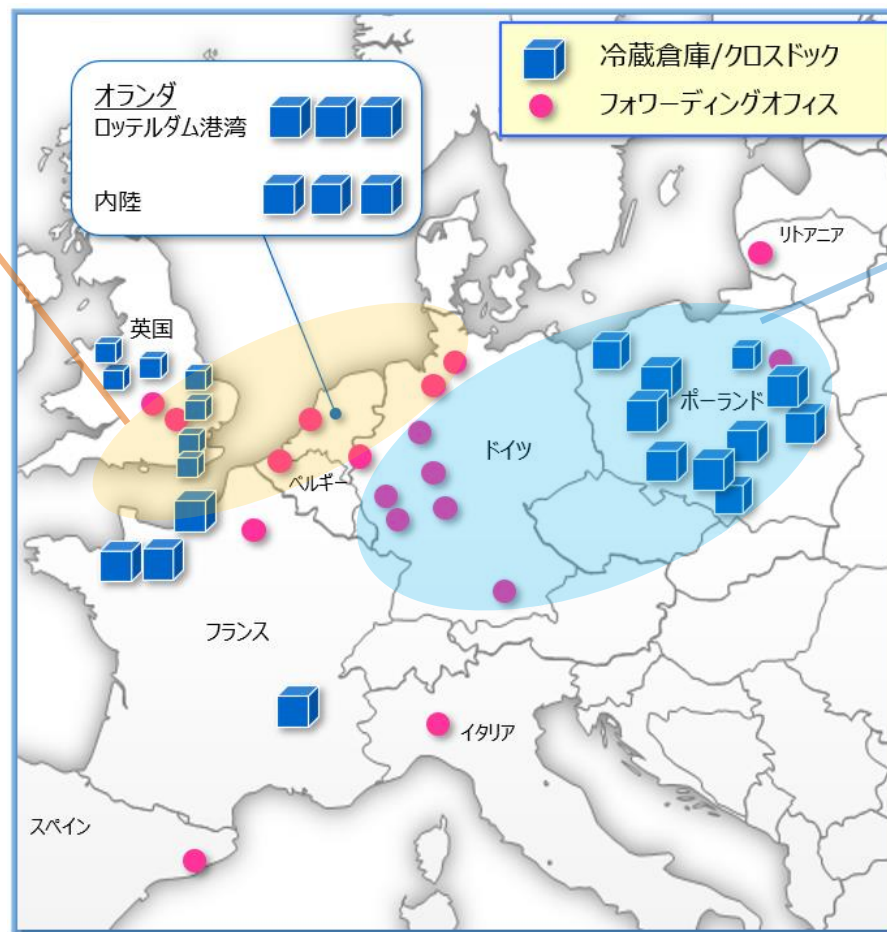


- ・ 港湾型、流通型の2つの強みで成長

港湾型ビジネスモデル （川上領域）

- ・ オランダ・ロッテルダムを中心とした港湾＋輸配送ビジネス

- ・ 港湾冷蔵倉庫機能と、通関/陸上/海上輸送機能を組み合わせ、国境をまたぐ一連の低温物流を提供



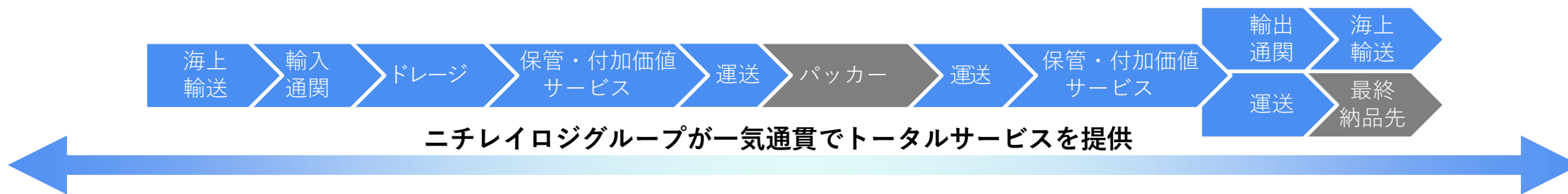
流通型ビジネスモデル （川下領域）

- ・ ドイツ・ポーランドにおける小売チェーン向け冷凍物流

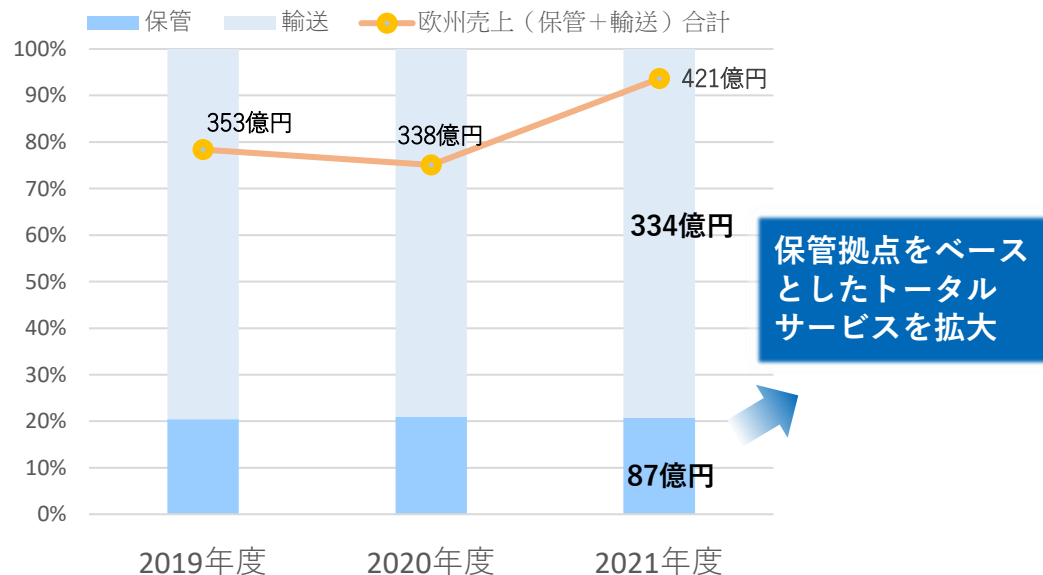
- ・ 特にポーランドは、欧州内での成長市場として期待が大きく、日本で培ったTC事業の形態・ノウハウと、ポーランド国内全域をカバーする運送ネットワークを組み合わせ、小売店向け冷凍物流を展開

今後の取組み（欧州）

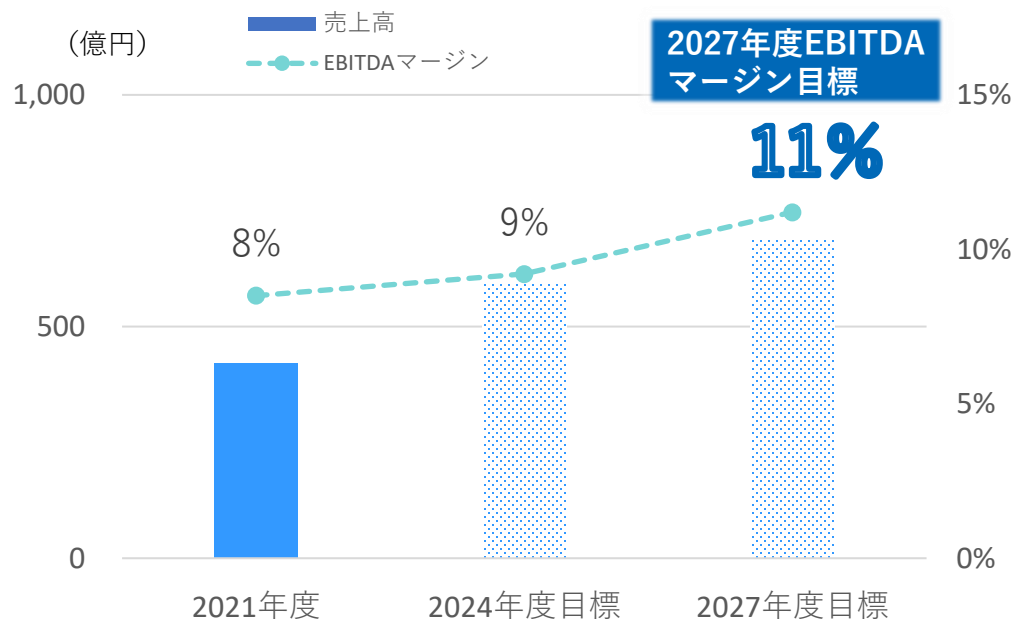
- ・ 2つのビジネスモデル（強み）を生かした「トータルサービス」を提供



保管・輸送事業の売上高と割合の推移



欧州事業の売上高・EBITDAマージン目標



今後の取組み（ASEAN・中国）

- ASEANでの欧州モデル（一貫物流サービス）の展開により、海外事業に占める売上規模を拡大

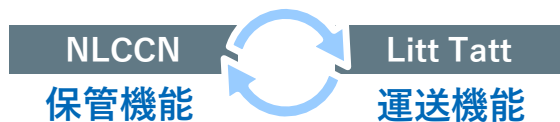
ASEAN事業

【タイ】

- 好立地を生かした保管・運送一貫サービスによる集荷拡大
- 1棟増設で付加価値サービスメニューを追加

【マレーシア】

- 2022年6月に低温物流輸送会社Litt Tatt社の発行済株式約49%を取得
- 運送機能の強化で旺盛な消費に応える



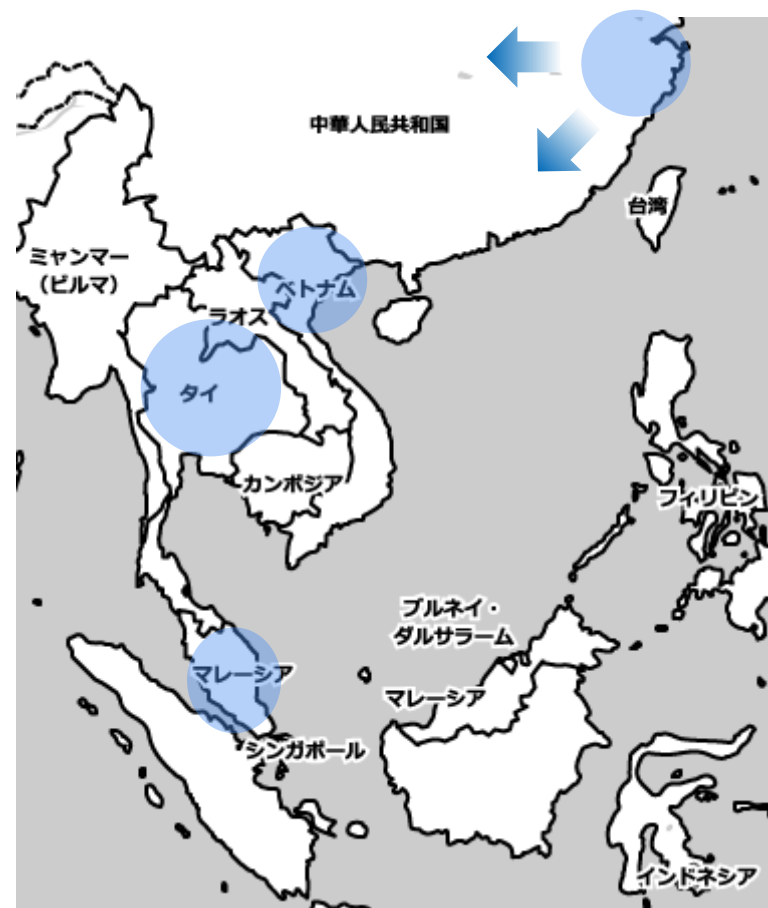
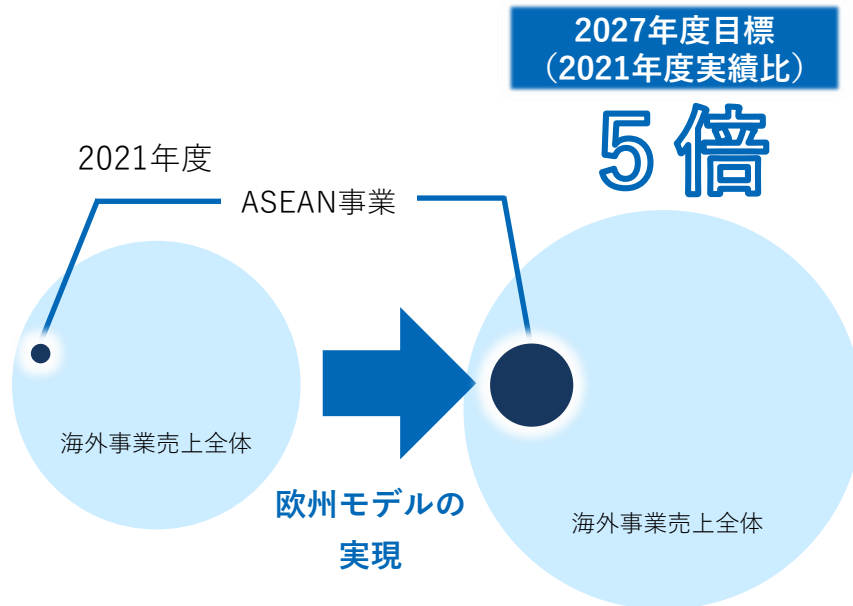
【ベトナム】

- 本格的な進出に向け、2023年2月に合弁会社を設立

中国事業

- CVS向けサービスを強化し大手顧客の成長を支援
- 現地法人との提携や出資による華南・西南エリアへの進出を検討

ASEAN事業の売上高の成長イメージ



(グループ重要事項) 気候変動への取組み

自然冷媒化率 (低温物流関係・海外含む)

2021年度実績	2024年度目標	2030年度目標
53%	63%	75%

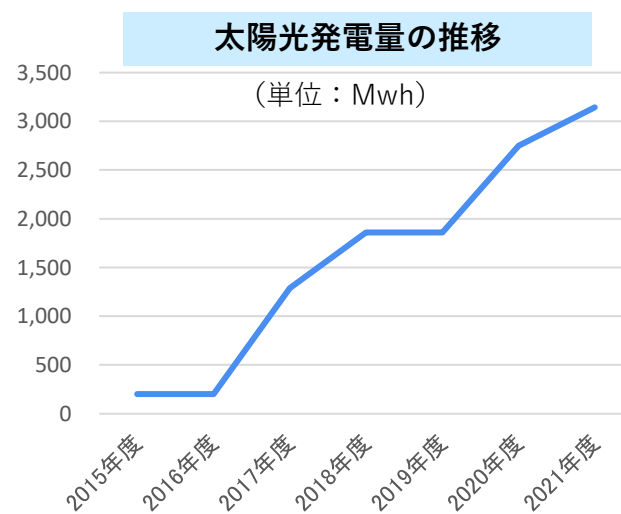
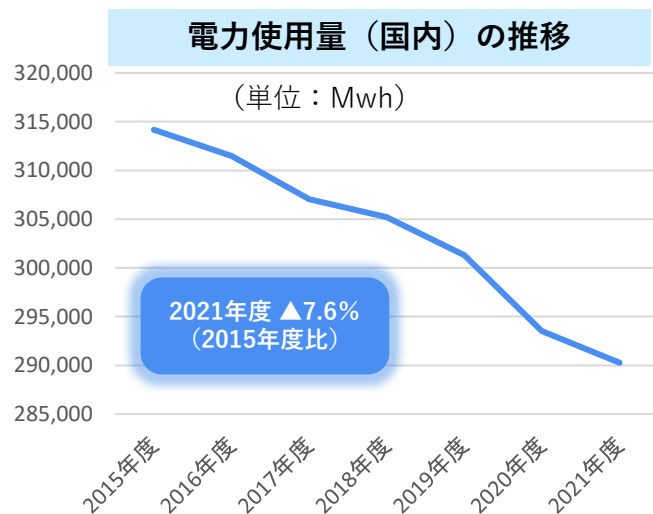
- (国内) 冷凍機の更新による入替えや、冷蔵倉庫の新設・建替え時に順次更新
- (海外) 各国の規制に合わせ計画的な更新を継続

(ニチレイグループ) CO2排出量 50%削減 (2015年度比、国内Scope 1、2)

	2021年度実績	2024年度目標	2030年度目標
ニチレイグループ	△20%	△30%	△50%

(主な取組み)

- ・太陽光発電パネルの導入
- ・2024年問題への対応や業務革新による効率化



名古屋みなとDC
2023年3月に太陽光発電パネル設置予定

ご参考：低温物流事業概要

■低温物流事業 概略

- ・企業概要、沿革
- ・業績の推移
- ・組織体制
- ・事業領域の全体像、顧客
- ・事業体系と主な事業内容
- ・付加価値サービス（国内・海外）

■国内

- ・ポジション
- ・事業説明（地域保管事業・輸配送事業・TC事業・エンジニアリング事業）

投資家の皆様からご質問の多い事業のご説明

■海外

- ・海外事業の概要
- ・欧州事業（概要、ビジネスモデル）
- ・中国・ASEAN事業（概要）

■共有事項

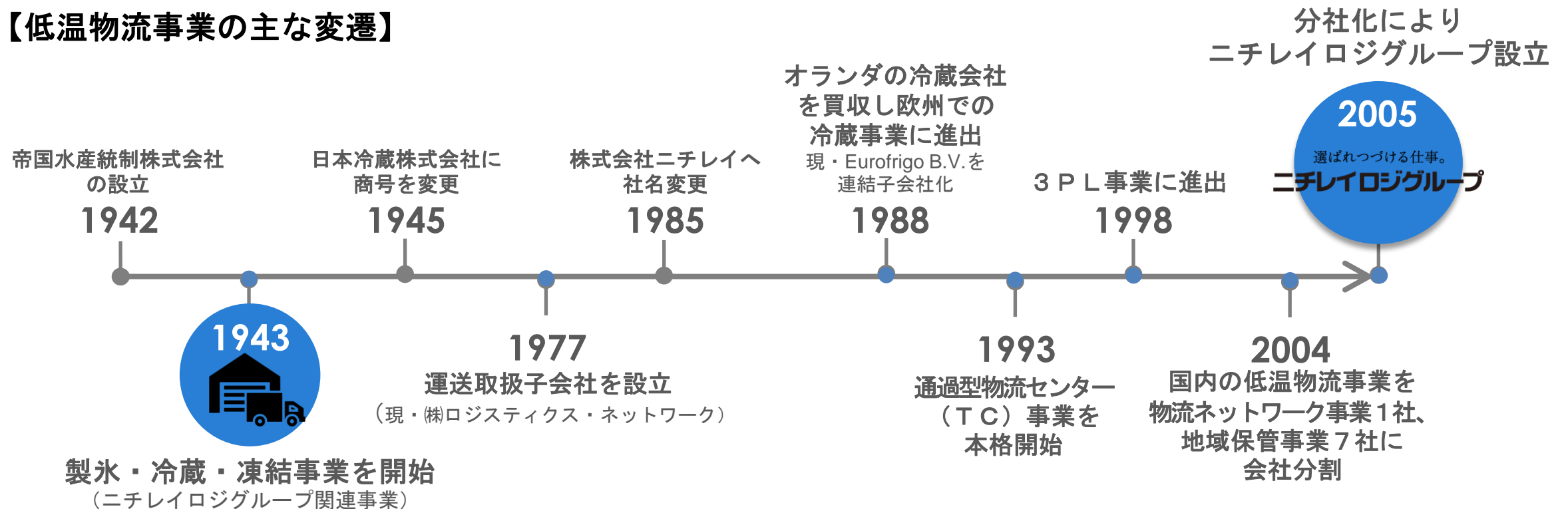
- ・用語解説
- ・ニチレイロジグループの情報について

低温物流事業 概略

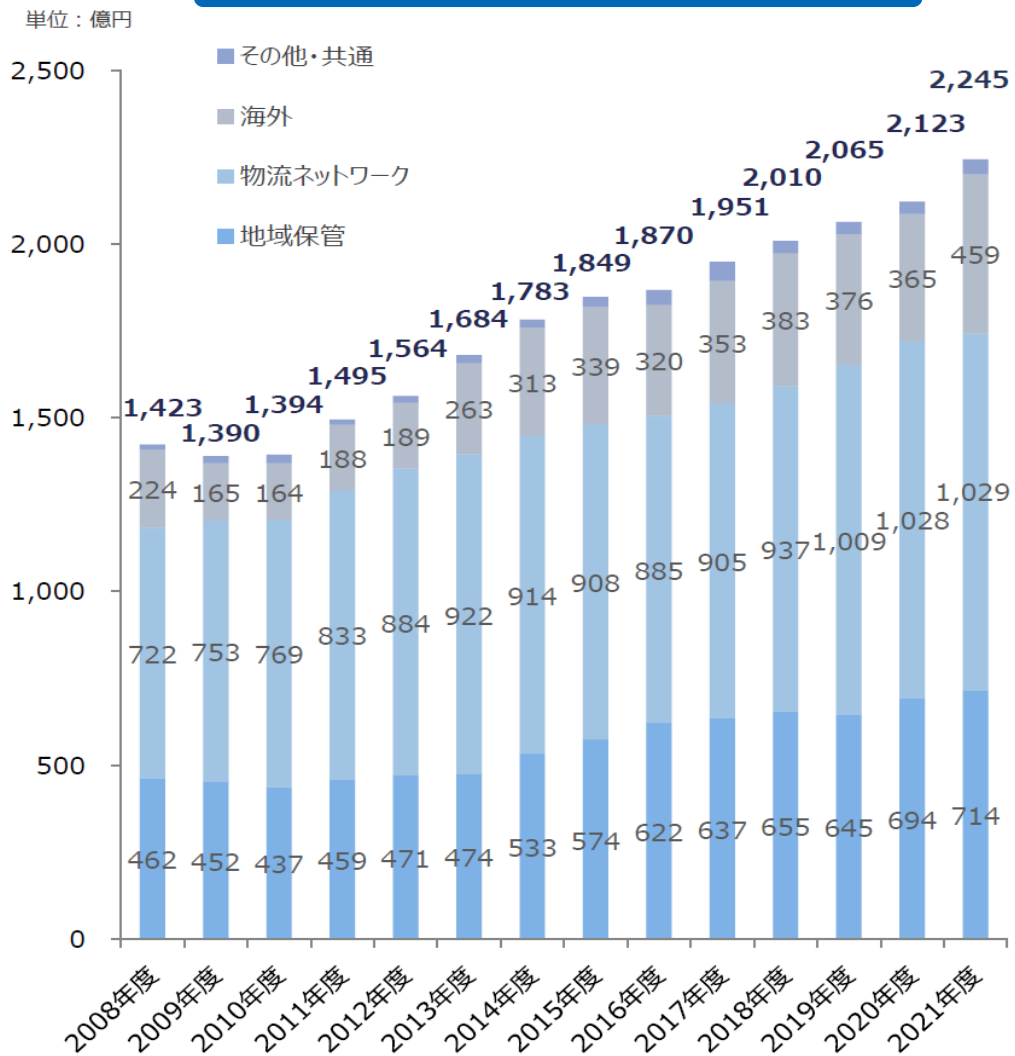
ニチレイロジグループ [○] (株)ニチレイロジグループ本社					
総資産	1,945 億円	従業員数	4,609 名		
売上高	2,245 億円	海外売上高	459 億円	営業利益	146 億円

※2022年3月期、連結情報

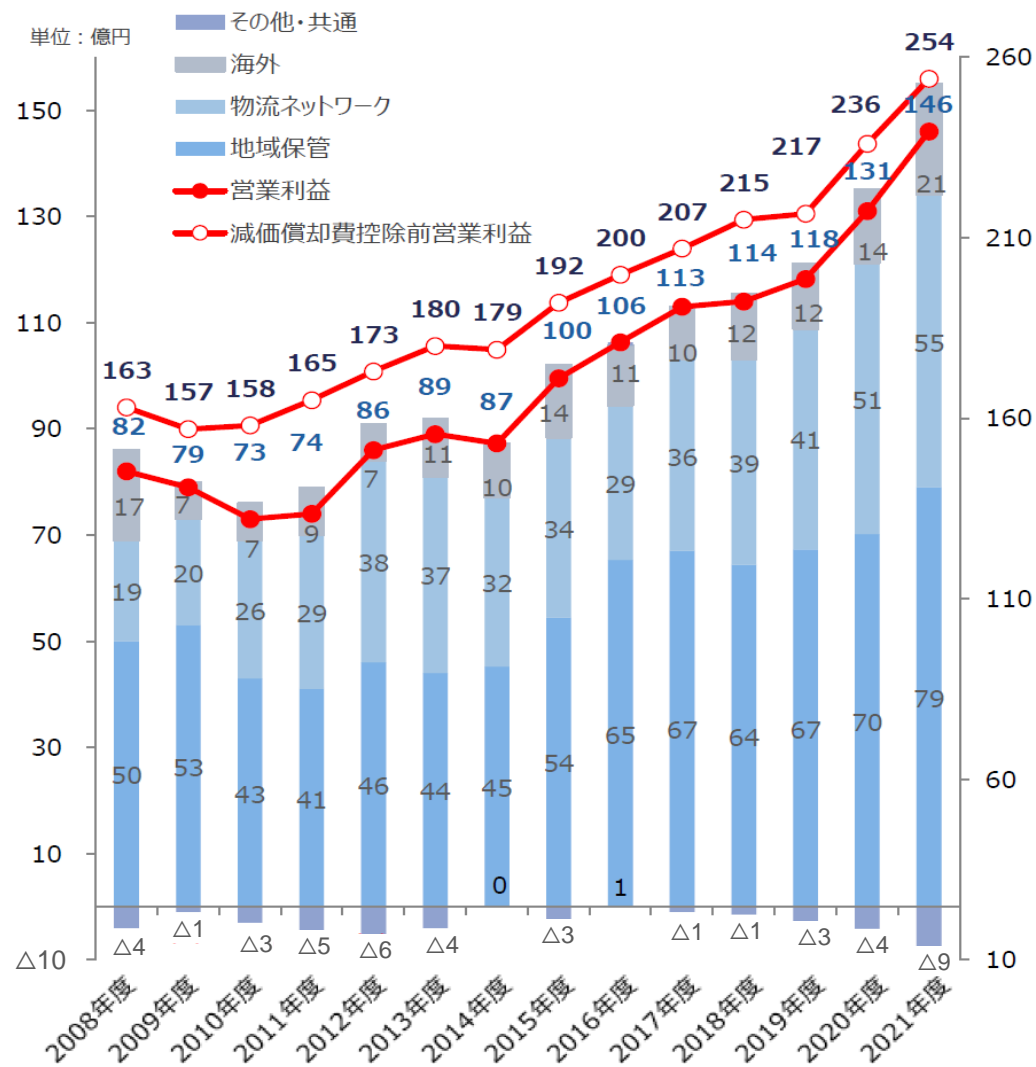
【低温物流事業の主な変遷】



売上高



営業利益・EBITDA



2023年1月現在


(株) ニチレイロジグループ本社 (持株会社)

子会社39社
関連会社11社

地域保管事業

(株) ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株) ニチレイ・ロジスティクス東北

(株) ニチレイ・ロジスティクス関東 

(株) キョクレイ

(株) ニチレイ・ロジスティクス東海

(株) ニチレイ・ロジスティクス関西


(株) ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株) ニチレイ・ロジスティクス九州

エンジニアリング事業

(株) ニチレイ・ロジスティクス
エンジニアリング

物流ネットワーク事業 (3PL・運送・流通・加工)

(株) ロジスティクス・ネットワーク 

(株) NKトランス

中国事業

日冷物流投資(上海)有限公司
(中国事業を統括する事業・持株会社)
上海鮮冷儲運有限公司
上海鮮榮運物流有限公司
江蘇鮮華物流有限公司
南京鮮華物流有限公司

タイ事業 (関連会社)

SCG Nichirei Logistics Co., Ltd.

マレーシア事業 (関連会社)

NLCold Chain Network(M)SDN BHD

NL Litt Tatt Group Sdn. Bhd.
Litt Tatt Enterprise Sdn. Bhd.
Litt Tatt Distribution Sdn. Bhd.

海外事業

欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.
(欧州を統括する持株会社)

Hiwa Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Eurofrigo B.V.

Thermotrafic Holland B.V.
Thermotrafic UK Ltd.
Kevin Hancock Ltd.

Thermotrafic GmbH

Frigo Logistics Sp. z o.o.
Armir Logistyka Sp. z o.o.
Armir Dystrybucja Sp. z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

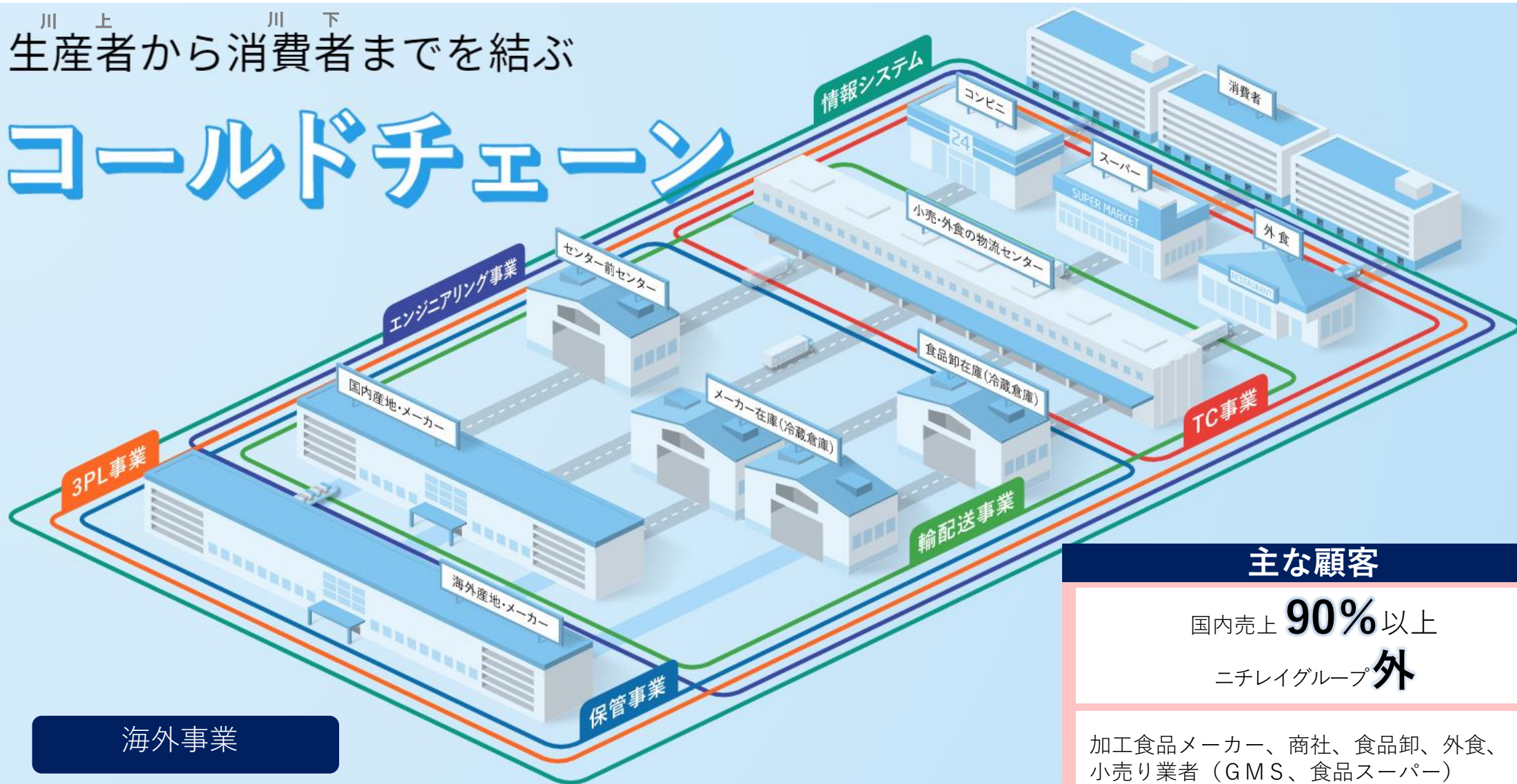
Norish(N.I.)Limited
Norish Limited



2023年4月
ロジスティクス・
ネットワークへ
統合予定

川上 川下
生産者から消費者までを結ぶ

ワールドチェーン



海外事業

主な顧客

国内売上 **90%**以上
ニチレイグループ**外**

加工食品メーカー、商社、食品卸、外食、
小売り業者（GMS、食品スーパー）

事業体系と主な事業内容



地域保管事業

[詳細 後ページ](#)

- ・日本全国の保管型冷蔵倉庫（DC※）で、畜産品、水産品、農産品、冷凍食品などを保管
- ・各地域内のエリア配送も手掛ける

拠点種別

DC
全国約80拠点

物流ネットワーク事業

輸配送事業

[詳細 後ページ](#)

- ・全国向けの輸配送を実施

保管事業

- ・一部地域での地域保管事業
- ※関東地域の保管・運送一体型のサービス提供を目的に、2023年4月、（株）ロジスティクス・ネットワークが地域保管事業を展開している（株）ニチレイ・ロジスティクス関東を吸収合併。これにより、事業体系上、関東の保管機能も物流ネットワーク事業に組み込まれる

3PL事業

- ・顧客企業に代わって効率的な物流戦略の企画立案や物流システム構築を提案し、それらを包括的に受託・実施
- ・ニチレイロジグループでは更にもう一步踏み込み、顧客企業の物流管理部門の役割を果たすLLP（Lead Logistics Provider）という立場まで進化させている

TC（Transfer Center※）事業

[詳細 後ページ](#)

- ・小売チェーンの専用センター（全国約40か所）で、センター運営と店舗配送を24時間365日体制で実施

TC
全国約40拠点

海外事業

[詳細 後ページ](#)

- ・欧州、中国、ASEANにおける低温物流事業

DC、TC、
XD※

エンジニアリング事業（その他事業）

[詳細 後ページ](#)

- ・ロジグループ内外の低温施設の設計・施工・維持補修

※ 参考16ページの用語解説を参照

- ・ニチレイグループが蓄積したノウハウを物流プロセスに組み入れ、付加価値を高めたサービスを提供

食品生産管理

PC（精肉）



リパック



流通加工

凍結設備



解凍設備



食品分析技術

分析ラボ（国内）

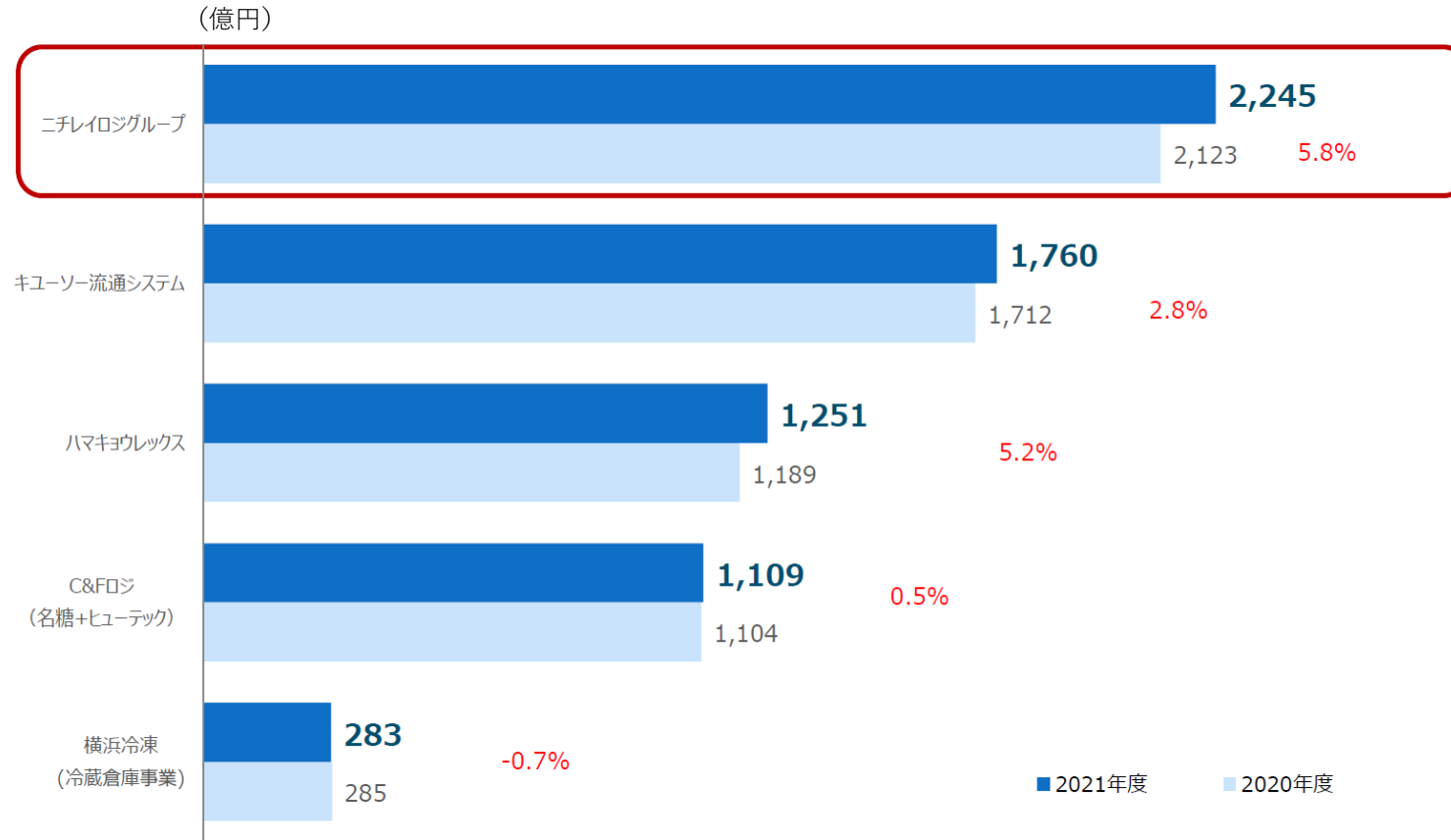


分析ラボ（オランダ）



国内

主要低温物流企業の売上高



※低温物流を主とする物流事業会社を選定

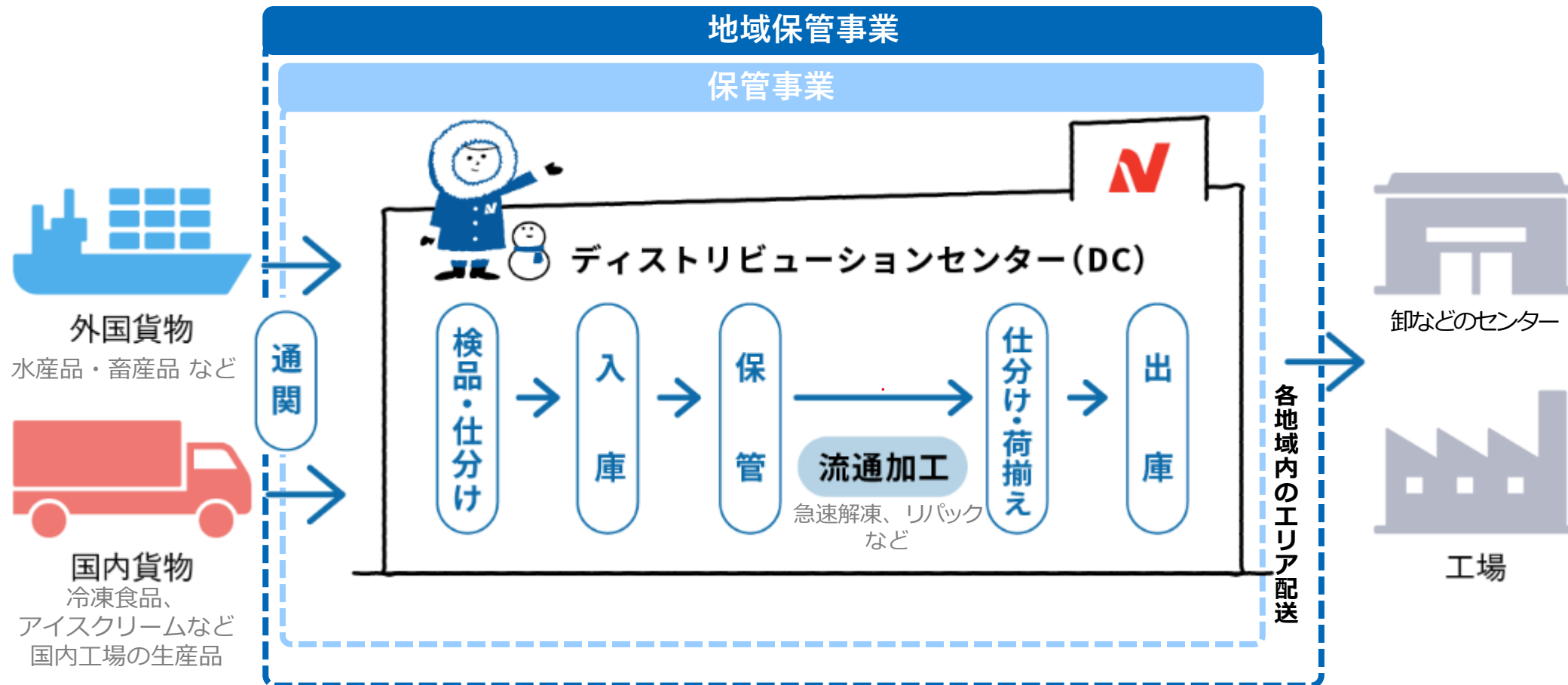
※出所：各社決算短信（2022年5月12日時点の最新版）における実績を元に当社が作成

冷蔵倉庫設備能力国内ランキング (推計)

順位	会社名	設備能力 (ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,550,257	9.1%
2	横浜冷凍(株)	939,086	5.5%
3	(株)マルハニチロ物流	662,316	3.9%
4	東洋水産(株)	606,230	3.6%
5	(株)C&Fロジ ホールディングス	520,766	3.1%
6	日水物流(株)	440,919	2.6%
7	(株)松岡	362,716	2.1%
8	(株)ランテック	322,069	1.9%
9	(株)キューソー流通システム	289,463	1.7%
10	鴻池運輸(株)	247,975	1.5%
11	(株)二葉	244,941	1.4%
12	五十嵐冷蔵(株)	224,193	1.3%
13	(株)ハウスイ	215,180	1.3%
14	(株)兵食	175,973	1.0%
15	(株)日本物流センター	172,110	1.0%
16	第一倉庫冷蔵(株)	158,424	0.9%
17	藤林グループ	155,698	0.9%
18	日本デイリーネット(株)	135,182	0.8%
19	寶船冷蔵(株)	125,199	0.7%
20	ムロオ	123,958	0.7%

※出所：日本冷蔵倉庫協会 2021年11月『冷蔵倉庫の諸統計』を元に加工
(協会に所属しない冷蔵倉庫は含まれない)

- ・適切な温度帯を維持しながら、倉庫内でのオペレーション、付加価値サービス（流通加工）を実施
- ・畜産品などの「原材料」から冷凍食品などの「完成品」まで多様なカテゴリーの商品を取り扱う



- ・ニチレイロジグループの安全品質基準に基づくパートナー庸車企業から構成される任意団体「ロジネット協力会」と連携し、約7,000台／日（海外約1,000台／日）を運行

長距離輸送から近距離の
小口配送まで
全国を網羅する
ネットワークを構築



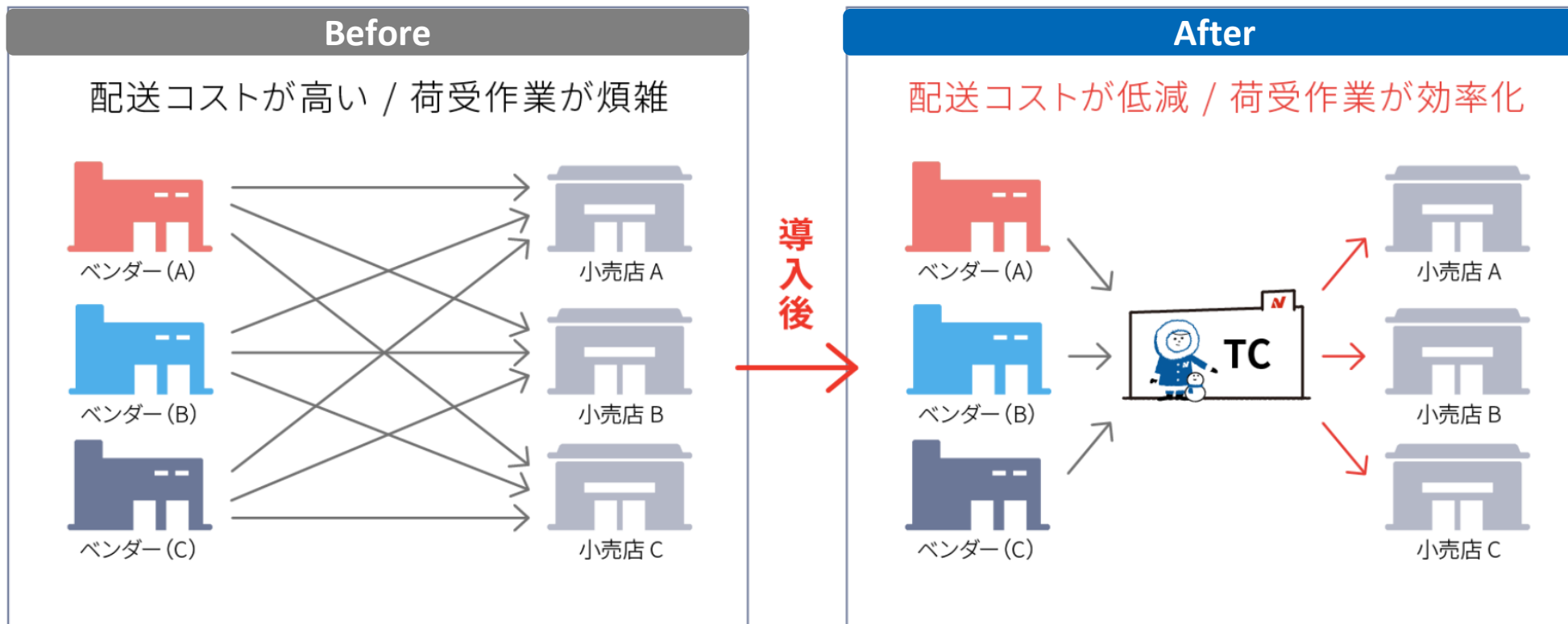
新たな幹線輸送システムの構築に向けた取り組み

SULS
S&U Logistics System

SULSの特徴

- ・ニチレイロジグループの拠点間輸送に、荷台部分が切り離し可能なトレーラーを活用
- ・荷積み・荷下ろし等の作業をドライバーではなく、ニチレイロジグループの拠点側で実施
- ・あらかじめ、中継拠点に荷積みされた状態のトレーラーを用意。ドライバーは拠点に到着後、すぐに用意してあるトレーラーを連結させ、次の目的地へ運行可能

- ・ 冷凍・冷蔵・常温（3温度帯）に対応できるTC内で、在庫を持たずに仕分け作業を行う
- ・ TCを介して一括納品することで、配送ルートをも最適化
- ・ ①物流コストの低減、②お届け先での荷受け作業の効率化、③CO2削減を実現



TCでの作業内容

- ①ベンダーからの商品を受付
- ②納品先である各小売店（店舗）ごとに仕分け
- ③指定時間や頻度で、各店舗に配送できるように出荷準備

※出荷後の店舗までの配送も、一部はニチレイロジグループで実施

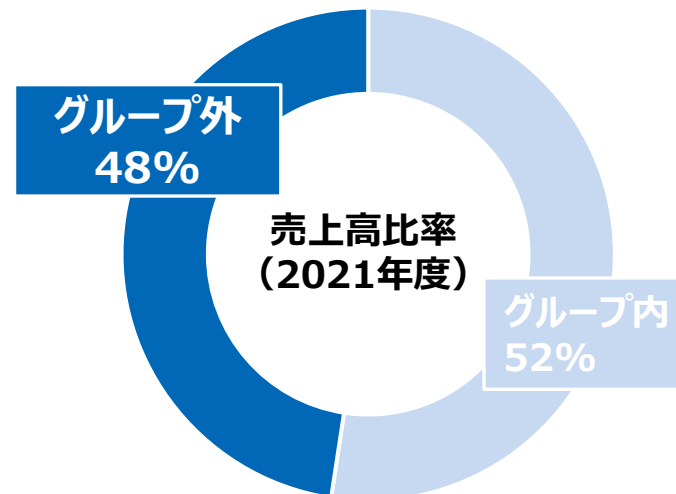
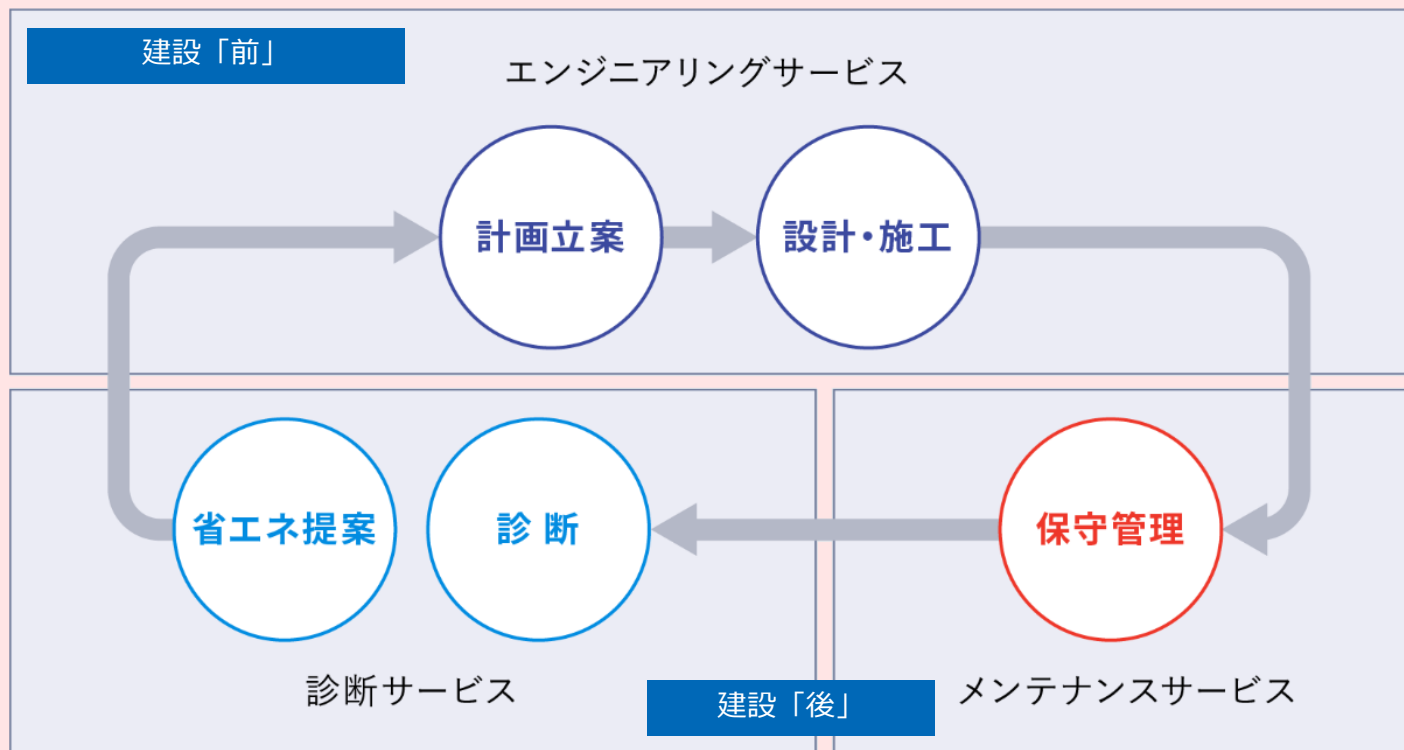
ベンダー（メーカー）20社と小売店（お届け先になる店舗）50店の組み合わせで考えると

積み下ろし回数 1,000回

積み下ろし回数 70回

- ・低温環境に特化した設備の計画・設計からメンテナンスや診断まで低温施設を全体最適化
- ・冷蔵倉庫に限らず、低温環境を必要とする食品工場や製氷会社など幅広い顧客層が特徴

事業領域 建物・設備の建設「前」から「後」までワンストップでサービス提供



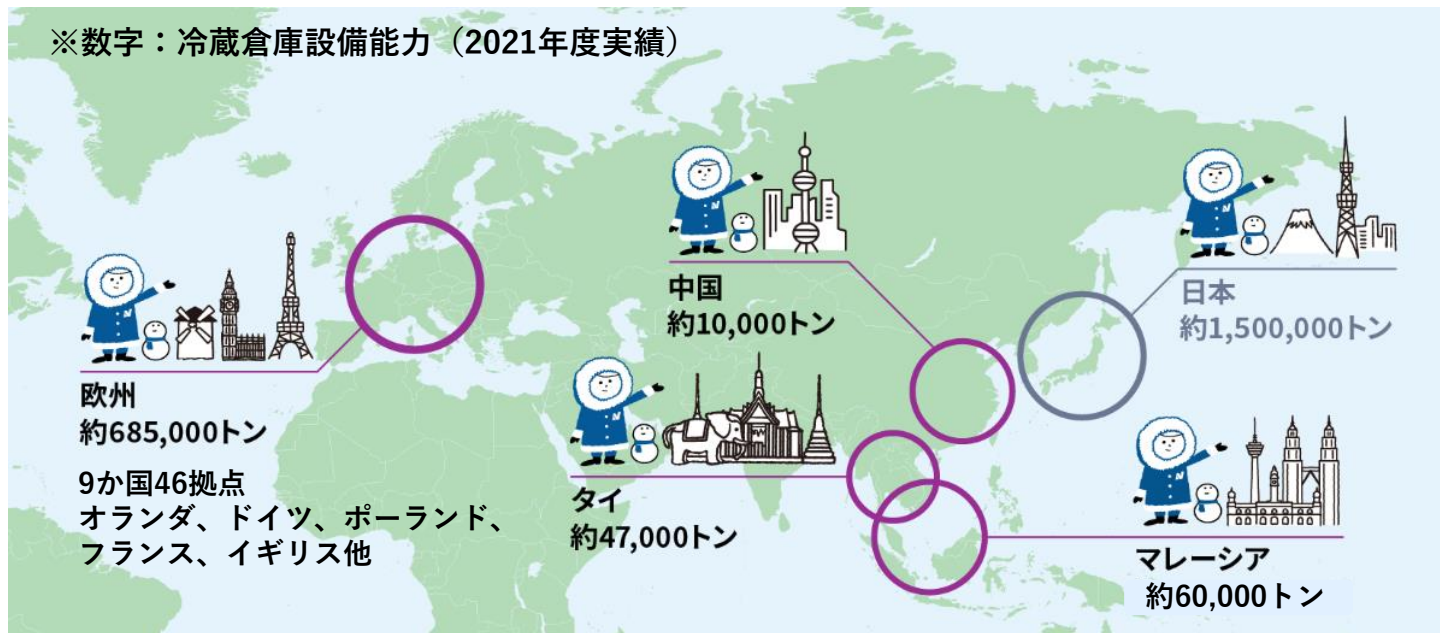
有資格者が多数在籍

一級建築士、一級建築工事施工管理技士、
一級管工事施工管理技士、
一級電気工事施工管理技士、
第一種冷凍機械責任者 等

海外

- 1988年、オランダの冷蔵倉庫会社（現：Eurofrigo社）買収から始まり欧州を中心にM&Aで発展
- 現在は12カ国60拠点以上に物流センターと営業所を設置

※数字：冷蔵倉庫設備能力（2021年度実績）



冷蔵倉庫設備能力 世界ランキング

順位	社名	所在地	設備能力 (万トン)
1	Lineage Logistics	United States, etc	2,940
2	Americold Logistics	United States, etc	1,599
3	United States Cold Storage	United States	479
4	NewCold Advanced Cold Logistics	United States, etc	244
5	Nichirei Logistics Group, Inc	Japan, etc	226
6	Interstate Warehousing, Inc	United State	131
7	Frialsa Frigorificos S.A. De C.V.	Mexico	123
8	VersaCold Logistics Services	Canada	120
9	VX Cold Chain Logistics	China	111
10	Constellation Cold Logistics	Belgium, etc	99
11	Superfrio Armazens Gerais	Brazil	86
12	Serbom Armazen Gerais Frigorificos	Brazil	77
13	Conestoga Cold Storage	Canada	73
14	Congebec Logistics, Inc.	Canada	69
15	RLS Logistics	United States	67
16	Burris Logistics	United States	67
17	Emergent Cold LatAm	United States	53
18	Friozem Armazens Frigorificos Ltda.	Brazil	42
19	Magnavale Ltd.	United Kingdom	41
20	Confederation Freezers -Brampton	Canada	39

※出所：IARW(世界冷蔵倉庫協会)「Global Top25 List」2022年3月資料を元に当社が加工

- ・現地に根付いた事業展開が特長（顧客はほぼ現地企業で構成され、経営も100%現地化）

ニチレイロジグループ本社

Nichirei Holding Holland (地域統括会社)



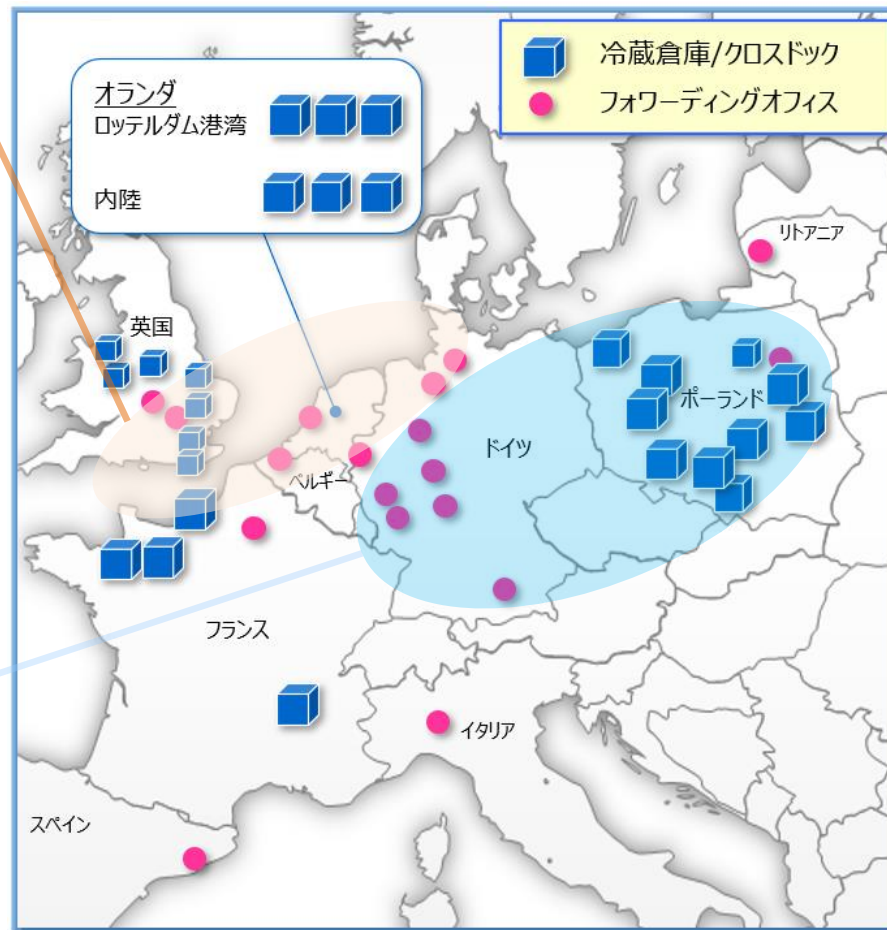
・ 港湾型、流通型の2つの強みで成長

港湾型ビジネスモデル (川上領域)

- ・ オランダ・ロッテルダムを中心とした港湾+輸配送ビジネス
- ・ 港湾冷蔵倉庫機能と、通関/陸上/海上輸送機能を組み合わせ、国境をまたぐ一連の低温物流を提供

流通型ビジネスモデル (川下領域)

- ・ ドイツ・ポーランドにおける小売チェーン向け冷凍物流



冷蔵倉庫設備能力 欧州ランキング

順位	社名	所在地	設備能力 (万トン)
1	Lineage Logistics	United States, etc	645
2	NewCold Advanced Cold Logistics	United States, etc	139
3	Constellation Cold Logistics	Belgium, etc	99
4	Americold Logistics	United States, etc	91
5	Nichirei Logistics Group, Inc	Japan, etc	63
6	Magnavale Ltd.	UK	41
7	Agri-Norcold A/S	Denmark	35
8	Frigoscandia	Swedn, etc	33
9	Frigolanda Logistics Group	Netherland, etc	15
10	Groupe Conhexa	France	13

※出所：IARW(世界冷蔵倉庫協会)「IARW EUROPEAN TOP 10 REFRIGERATED WAREHOUSING & LOGISTICS PROVIDERS」2022年3月情報元に当社が加工

- ・中国は荷主の事業拡大を支援しながら成長
- ・タイ、マレーシアでは欧州モデル（※）構築を目指す

※ 通関・保管・国境をまたぐ輸送（クロスボーダー輸送）を一体化させたサービス



中国事業

(合併会社)

日冷物流投資（上海）ほか4社



保管・運送事業

□ 7 DC (TC機能含む)

約1万トン

(常温を含む場合、合計約9.4万トン)

荷主例

CVS、飲食店、外食

特徴詳細

- ・小ロットで多頻度の店舗向け配送業務を得意とする
- ・3温度帯での商品の取り扱い可能
- ・利用運送事業者

ASEAN事業



タイ

(合併会社)

SCG Nichirei Logistics



保管・運送事業

□ 1 DC

約4.7万トン

食品メーカー、量販店、外食

- ・タイ最大の輸出入港であるレムチャバン港、首都バンコクの両方にアクセス良好
- ・実運送事業者



マレーシア

(合併会社)

NLCold Chain Network
NL Litt Tatt



保管・運送事業

□ 7 DC

約6万トン

冷凍・冷蔵食品メーカー

- ・マレーシア最大のハラール専門物流事業者で、国際間輸送を行うハラール認証（"JAKIM"MS2400-1：2010・MS2400-2：2010・）取得済み
- ・実運送・利用運送事業者

共有事項

以下は、一般的な概念を踏襲しつつ、ニチレイロジグループで指す用語解説となります。

* DC : Distribution Center、在庫型物流センター。

在庫を持って保管する拠点を指します。

* TC : Transfer Center、通過型物流センター。

在庫を持たず入庫した商品を方面別に仕分け出荷する拠点を指します。

ニチレイロジグループでは、3温度帯の流通型物流センターで、特定荷主専用の拠点をTCとしています。

* XD : Cross Dock。

一般的には、在庫を持たず入庫した商品を方面別に仕分け出荷する機能を指します。

ニチレイロジグループでは、特に海外で、冷凍の温度帯の流通型物流センターのうち、複数の荷主の荷物を同じセンター内で扱う拠点をXDとしています。



ニチレイロジグループでは、
毎年5月に決算や中計の進捗を社外向けに発表する「事業報告会」を開催し、
資料をホームページで開示しております。
ご参考情報としてご活用ください。



ニチレイロジグループWebページ

<https://nichirei-logi.co.jp/index.html>

事業報告会資料掲載ページ

<https://nichirei-logi.co.jp/company/report.html>

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。